（プレス発表資料）

令和２年４月２７日

中央区は６６年ぶりに定住人口１７万を突破しました

本区の人口は、令和２年４月２７日に１７万人を突破し、昭和２９年以来６６年ぶりに１７万人台となりました。

本区が誕生した昭和２２年当時の人口は１１６，９４０人でしたが、復員や戦災復興とともに急速に増加し、昭和２８年には１７２，１８３人とピークを迎えました。しかしその後、高度経済成長と都市化の進行に伴い減少し、昭和４０年には１４万人を割り、さらにバブル経済を背景とした地上げや底地買いなどにより、平成９年４月には戦後最低の７１，８０６人まで減少し、都心の空洞化や地域活力の低下などが深刻になりました。

このため本区では、定住人口回復を区政の最重要課題と位置づけ、昭和６３年１月に「定住人口回復対策本部」を設置し、「都心に人が住めるようにしよう」を合い言葉に住環境の整備を中心とした総合的な施策に区の総力をあげて取り組んできました。その結果、平成１８年４月４日には長年の目標でありました「定住人口１０万」を達成しました。その後、人口は順調に増え続け、平成２０年９月に１１万人、平成２３年１１月に１２万人、平成２５年４月に１３万人、平成２７年４月に１４万人、平成２９年１月に１５万人、平成３０年５月に１６万人、そしてこのたび１７万人を突破しました。

人口構成では、特に３０代、４０代、５０代の働き盛り世代が中心となり、かつて２３区の中でもトップクラスであった高齢化率が現在では１４．８２％と最も低くなっています。また、年間出生数は平成１１年までは５００人台でしたが、１０万人を達成した平成１８年以降は１，０００人を超え、昨年は２，０８８人の新生児が誕生しています。

今後とも、子どもから高齢者まで誰もがいきいきと安心して暮らし続けられるまちづくりを推進してまいります。